



国会よ、正気を取り戻せ

一体いつまで続けるつもりなのか。多くの野党、メディアはモリカケや自衛隊日報の「疑惑」追及に明け暮れ、事の軽重を完全に見失っている。

憲法論議、北朝鮮問題、長期の戦略的思考を要する日中関係、経済摩擦も加わり複雑さを増す日米関係など国家的課題が置き去りにされている。目を中東に転じれば、米英仏のシリア攻撃に見られるように、国際情勢は激しく動いている。

大統領制のアメリカでは、法案も予算も基本的に議員同士の論戦で帰趨が決まり、大統領に議会出席の義務はない。

他方、議院内閣制の日本では、首相は国会質疑に拘束され、その分内外の重大事案に割く時間は削られる。本来、大統領制以上に野党議員の自覚が求められるのが議院内閣制である。にもかかわらず、野党は論点がずれた「疑惑」を持ち出し続ける。

森友学園は、財務省の問題だ。加計学園は、岩盤規制打破の問題だ。自衛隊の日報は、公文書管理の問題だ。

これらの問題を国会は連日、安倍晋三首相の介入疑惑、あるいは隠蔽工作疑惑に結びつけ、本質から外れた批判を繰り返す。その目的は、安倍首相の掲げる憲法改正阻止にあるのではないか。

わが国がいま外交・安全保障で身動きがとれなくなっているのは、現実に対応できなくなった憲法を正そうとせず、常識から外れた議論に終始する政治の無責任さに原因がある。

焦眉の急は、憲法改正をはじめとする国政課題に取り組むことだ。国会よ、正気を取り戻せ。

公益財団法人 国家基本問題研究所

理事 長 櫻井よしこ
副理事 長 田久保忠衛

- 高池勝彦 川村純彦 西修
- 小倉義人 北村稔 西岡力
- 荒木和博 黒澤聖二 花田紀凱
- 五十嵐徹 五島幸雄 浜谷英博
- 石川弘修 斎藤守 火箱芳文
- 伊藤隆 佐藤禎 平川祐弘
- 井上和彦 島田洋一 福田逸
- 上田愛彦 すぎやまこういち 湖辺美紀
- 梅澤昇平 高橋史朗 古庄幸一
- 呉善花 立林昭彦 古田博司
- 大岩雄次郎 塚本三郎 百地章
- 太田文雄 土田龍太郎 山田吉彦
- 大原康男 鄭大均 屋山太郎
- 加藤浩康 富山泰 渡辺利夫
- 金田秀昭 奈良林直

意見広告

国基研創立10周年記念シンポジウム

【日 時】5月17日 午後2時～5時30分(定員350名・同時通訳)
 【会 費】国基研会員 1,000円／一般 3,000円
 【場 所】東京メトロ霞ヶ関駅から徒歩圏内 ※参加券に記載
 【事前申込制】5/1(火)午後5時までに「シンポジウム参加」と明記し、●〒住所●氏名●年齢●電話番号をご記入のうえFAXにてお申込下さい。参加券をお送りします。
 ※ただし、定員に達次第、締切ります。取得した個人情報は、本シンポジウムの目的以外には利用いたしません。

入会案内 志を共有し、日本を変えていくために、広く会員を募集しております。入会御希望の方は郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して、葉書もしくはFAXにてご連絡ください。折り返し入会申込書をお送ります。ホームページからも入会できます。

葉書 〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番1号 平河町ビル「国家基本問題研究所事務局」S係

FAX 03-3222-7821 **URL** <http://jinf.jp/>